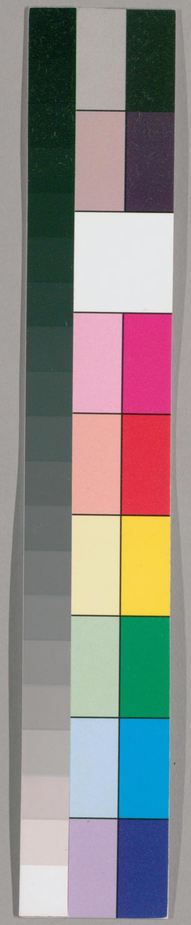
源氏物語

一巻

詞を若こきわ

函 156
冊 61
857
120
貴重書 決入



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120
ガラス使用

桐壺ハ桐木ヲ之極タル処之

淑景舎 桐壺之 照陽舎 利木壺之 春宮ノ御

源 彩抄

玉の小櫛

日 捕遺

源氏餘橘

平 能為 老 源 修 保 伏

巻ノ名桐壺ノ更衣ノ故也源氏誕生ヨリ十二才マテノ夏有

巻ノ末ノ詞ニ才ト十二成給テ後トアリ箒木ノ巻

十六才両巻ニコモル此数多也

いとトハ抽ヲツヨクイハントテ先云詞之イトシモ人ニト云モツヨクムツレ

きをトハ一ツレホトニハナキト云心之此一段ハ為端ノ詞ニシテ源ノ母相処ノ

稚姓并ニ一詞ノヤウヲアラ〳〵シルシアラハセリ言ツヽマヤカニシテ上カヒロシト云

女法ハ后ノ次之更衣ハ女法ノ次之

四位 給女ノ起名之帝ノ御服ヲメシカフル時アツ

カヒ竹人

ナルニヨリ

更衣ト云ナリ

此書端ノ辞甚深之先作者ヲアラハサス此メツタヘタルヤウニ書タリ異々ノ始終ニモソノ趣アリ傍人ノ難シ才ハサル故之延喜ノ帝ノ御貶ノ夏之伊勢集ノ始ニモイツレノ御時ニカ有ケン此詞ヲトレリ

源氏誕生より十二才まで

いづれの御時にか。めづ更衣あまたさぶらひ給ひ

ム用ノ党多シ

なりけり。いとやむごとなきはしらぬ。

桐壺更衣

すぐれてときめきたまふありけり。じめよりはれ

本来モトヨリ

冷眼トカケリ 目ニツケ又心之

たゞ

ことしめてねたまふ。おれしほど。それよりも

下らうの更衣たちはまして

のこやづかへにつけても。人のこころをうごかし。うらみをおふつもりにやありけむ。いとあつしくなりゆき。もはしばしばさとがちなるを。いよ

不宜ナリ

あらずあらんなるものにおほしてしかし。人のそしりをもえはばかりをもえ。世のためしにもなり

桐壺更衣

又ルムナト云心之

レイウン

霊運

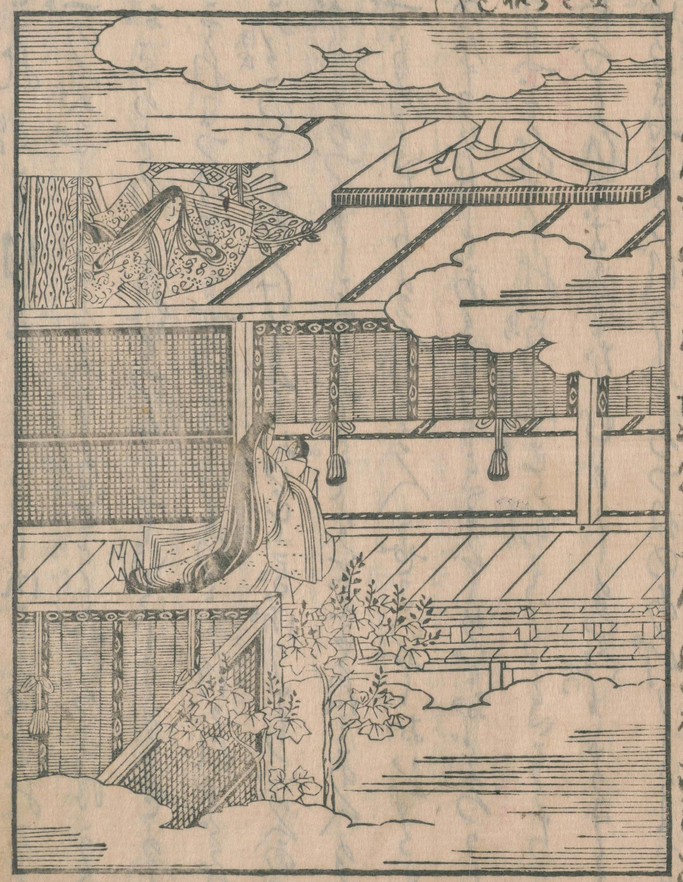
アツシ

長恨ニ浅皇

桐壺

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

すぐるほどもなんたゝ(文衣)
げばれつゝひもいとあへるく(玄敢)
うめきたれ心もすゞひるよりはゞ
れにこゝろもりおりまゐみこゝろ(源氏)
ぎまほしくれどうほどもあるさ(忌アリテ)
てなればゝうぞでのなんとそ(ほ氏)
おもほしたゞまゝぬ人ぐのうきまゝひゝ(れ)
れるこゝのひまのくるゝれおゝ(サホトニナキフニメニトノ心)
ろそまゝりのみこゝろをゝ
うかれのうるゝあゝ
してなくれいよひるゝ

(源氏)

(忌アリテ)

(サホトニナキフニメニトノ心)

(ほ氏)

(れ)

(ゝ)

(ゝ)

(ゝ

すぐるほどゝなんたゝたてのめるとてるまさは
げばけつるひもいとあへるくてゝりまいりぬぎ
こしめすけしまどひるまゝすもおぼしめしわら
れぬこゝろもりおいします　みこいかゝてもいとおろん
ぞまほしけれどうゝほどゝまさすこゝろひのれいるき
てとなれば　ゝまでのなんと寺るまさごとりあらん
おもほしたらぬさまこゝ女人ごのるきまどひうへも
けるこゝのひまるくるゝれおいしますをいやしと
こゝてまつりのへるを　ゝろしきてとまこゝる
ゝゝわれのるしゝぬてるきわざるるをま
してなれまいふひるしゝぎりなれば稱いれ

さほうまおさめてまつるをとゝふのるこゝおけし
ゝゝりまものかりなんとゝるいふ
のゝ屋のくる夜まさこゝひのりのてとゝさしいふ
而ゝいといみしうそれさほうまさゝりまし
つきたるこゝちいぐゝりゝはありけんゝるしき
けるこゝをこゝろく祝おしすものとさふがいとまひ
なれば　ゝいまなりのゝんをこゝてまつりて今ハ
るき人とひこゝるまさひなりなんとさりしうの
のゝつれどくるまよりおらぬべうまどひのへハさ
てさひけゝ　ゝと人ごもてわづらひ　内裏
けはゝひあり三位のくるゝをとゝりのゝし勅使さ

葬也 サウ ハウ 火也

魯辺肥ヲ云也 愛石

忌アリテ 桐壺中ニサフラヒ所アレイナキトシ

サホトニナキアニメニトノ心

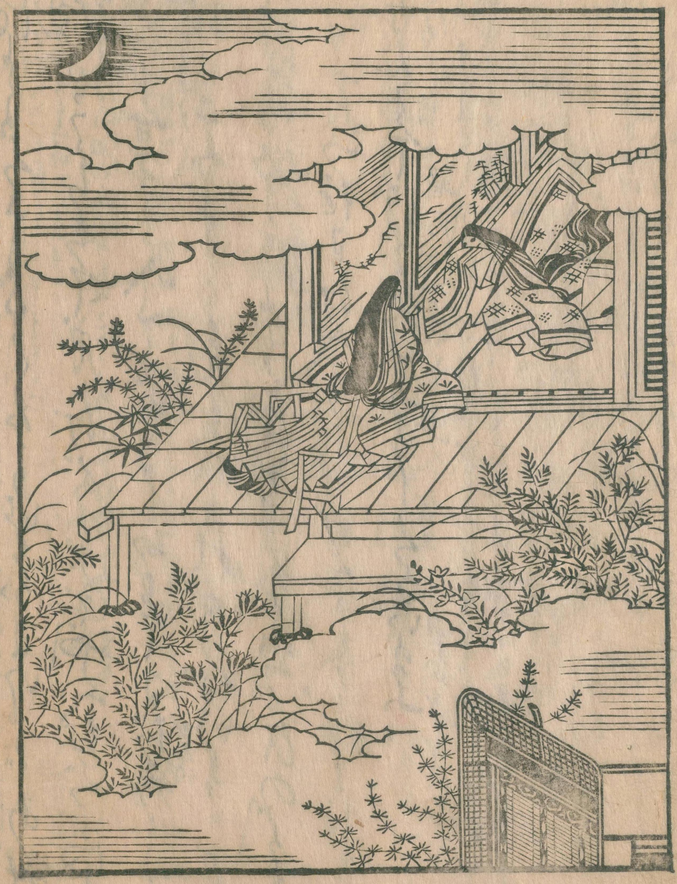
内裏

續日本後紀第八卷 承和六年 六月己卯紀云 女御従四位下藤原朝臣澤子卒 故紀伊守従五位下総継之女也 天皇御之皇子一皇女也 宗康親王是也 寵愛之隆 猶冠後宮 佛病平癒 遣中使贈従二位也 禁中終到黒雲便絶矣 天皇聞之哀悼 遣中使贈従二位也 皇女哀悼 贈三位也 皇子一皇女と女御とは別ものとしるし 澤子也 相同し 准據とすべきなり 澤子也

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

（内心）いとうしろめたしとおぼしめしたれど、

え逃びあへさせたまはず、（更衣ノ初テ参内シ時ノ事）

（別ノキサミニハ何ヲモキボニカケレバ次ノ〳〵ノサマニヲ女アラハセリ総ジテ心ノ付ケカウシテモ月日ヲフル程カト）

いとどうしろめたう、（人ナイジメ）

（更衣ノ初テ参内シ時ノ事）

（別ノキサミニハ何ヲモキボニカケレバ次ノ〳〵ノサマニヲ女アラハセリ総ジテ心ノ付ケカウシテモ月日ヲフル程カト）

わりなき時のまもおぼつかなう、

（更衣ノ初テ参内シ時ノ事）

（別ノキサミニハ何ヲモキボニカケレバ次ノ〳〵ノサマニヲ女アラハセリ総ジテ心ノ付ケカウシテモ月日ヲフル程カト）

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

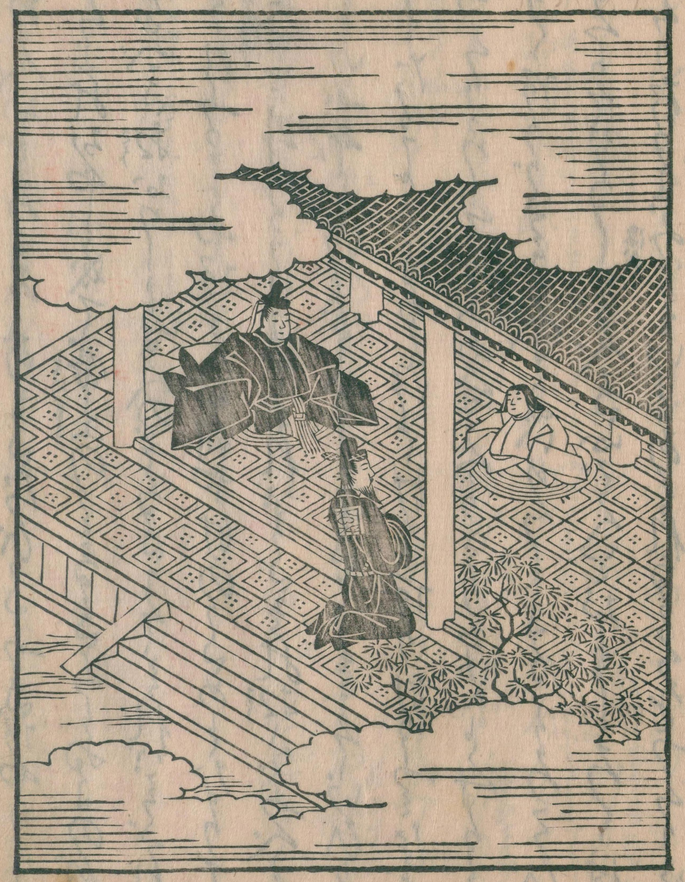
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

雉 日本紀ニハ文ナシ
神代紀イシコワカシヲノ
ミコヨリ 舒明紀
肝稚キミワタシ
はまぐりのうまれいでぬ
あさうれいわりよくとう
サ匂ふうるはしくいとうつくしや

（キヽ 稚 河 日本紀）

へりいでさせたまひてうへおはしまし
そめてのちひさしうなりぬれば（葵上十六）
そのほどよりはじめたてまつりし（源氏十二）
うへのおぼしおきてたるやうおはすれば
ことにふれてもなほいとやむごとなくて
なんおはしますべきとはかりにこそ（朱雀院）
うるさくおぼしたれ君さへ（源氏心）
のがれがたくおぼしのたまはせつるを
おとゞのれいさほひいかものまもなく
おぼしおごりたるさまにもてなしおはさ
れば（葵上母）

（女房）
のおとゞの中将さき
（女房）
のおとゞの君（源氏心）
（女房）
もよなん（源氏心）
（源氏心）
（葵上）
（源氏心）
（葵上）
（源氏心）
（葵上

857
120

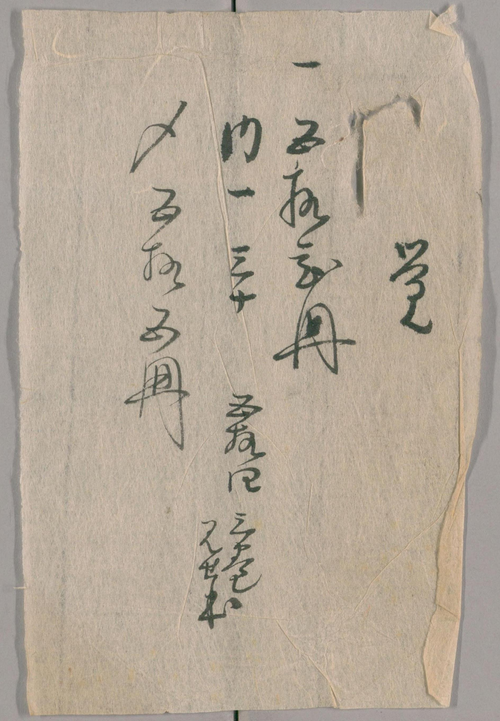
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120

ガラス使用

源氏畫帖

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用　挟み込み物



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120

ガラス使用　挟み込み物